

# 信州伊那 高遠城址公園周辺案内図



## 高遠城址公園

高遠城は、三峰川と藤沢川に削られた河岸段丘上の突端に位置しています。段丘上から見れば平城のように見えますが、他の三方から見ると川敷から80mもの高い丘の上にある山城の姿をしているため、一般的に平山城と言われています。

高遠は古くから諏訪氏の勢力圏にあって、南北朝の頃よりその支族である高遠氏が一元を治めていました。しかし、ここが諏訪から伊那へ抜ける交通の要衝であり、南信濃から駿河や遠江に進出するための重要な地点であったことから、天文年間(1532~1555)に武田信玄の侵略に遭い、その旗下に属しました。高遠を手に入れた信玄は、高遠城の拡張改築を家臣に命じ、天文16年(1547)に「鉄立て」を行っています。この築城に関わったのが山本勘助であると伝えられています。江戸時代には大規模な改修がなされているため、当初信玄が改修した城の姿は分かりませんが、各曲輪を隔てるためにめぐるされた深い空堀や、城内に残る土塁からは、地形を巧みに利用した戦術的な城の姿をうかがい知ることができます。武田氏による高遠支配は35年間続きましたが、高遠城が南信州の拠点として重要視されたため、城主は、諏訪(武田)勝頼や仁科五郎盛信など信玄の近親者が就いています。中でも天正10年(1582)、伊那谷に攻め入った織田軍と戦った仁科五郎盛信の姿は後々まで語り継がれ、盛信の流した血は城内に植えられているタカトオコヒガンザクラの赤みにもなぞられています。

明治5年、新政府の手によって城内の建物は民間に払い下げられましたが、城跡には、旧藩士らの手によって「桜の馬場」から桜が移植され、明治8年に公園となりました。

公園北口には昭和11年に高遠出身の池上秀敏・小松伝一郎・広瀬省三郎・矢島一三の四氏が建て、町に寄贈した国登録有形文化財「高遠閣」があります。その他公園内には太鼓櫓・当時の空堀や土塁、無字の碑を始めとした数々の碑文等があり古きを偲ぶことができます。

桜の時期を過ぎても、初夏の新緑、秋の紅葉等、四季折々楽しむことができます。

お問い合わせ (一社)伊那市観光協会(伊那市役所内)  
 TEL 0265-78-4111(代)

企画・発行

伊那市



高遠さくらナビ  
 すいすい〜ナ